

コロンビア大学との研究交流

2011年3月9日付けで、奈良文化財研究所は米国ニューヨーク市所在のコロンビア大学中世日本研究所（バーバラ・ルーシュ所長）および建築・計画・保存大学院（マーク・ウイグリー大学院長）と研究協力および交流に関する覚書を交わしました。その内容は、2011年4月1日から2016年3月31日までの5年間にわたり、①研究者の交流、②文化遺産の調査・研究、保存修復に関する学術活動の共同実施、シンポジウムの共同開催、③三者が関心を有する文化遺産の調査・研究、保存修復に関する情報の共有、学術資料の交換をおこなうものです。具体的な実施方法は別途協議としましたが、当面考えていることの一つは、奈文研から年間2名程度の研究員をコロンビア大学に派遣して、研究成果の公表や先方の研究者との議論をおこなうことです。

奈文研は、文化遺産およびその保存や整備に関し、国内はもとよりアジアを中心とする諸外国の物件を対象に大きな成果をあげてきました。しかし、そのことが広く国際的に評価されてきたかというと、必ずしもそうとは言い切れません。その理由の一つに、英語による国際的な情報発信が十分でなかったことがあります。今回のコロンビア大学との研究交流では、奈文研の研究員が自らの成果を国際的に発信する端緒とともに、米国の研究者との議論を通じて、新たな研究の視点や方法を獲得することが期待されます。同時に、先方からも文化遺産に関する共同シンポジウムの開催など、積極的な働きかけが予想されます。これらを通じて「世界の奈文研」への足がかりができればと考えています。

（文化遺産部 小野 健吉）



中世日本研究所のあるコロンビア大学ケントホール

西トップ遺跡 現地事務所の開設

奈良文化財研究所では1993年度よりアンコール文化遺産保護に関する研究協力事業を進めており、1996から2000年度にはタニ窯跡の調査を、2002年度からは西トップ遺跡の調査をおこなっています。

西トップ遺跡はアンコール・トムの中にあり、バイヨン寺院の南西に位置しています。奈文研では、西トップ遺跡に関わる考古学、建築、保存科学の各分野からの調査を進めており、昨年度の発掘調査では金やルビーなどを納めた鎮壇具や仏像など新たな発見が相次ぎました。

しかし、2008年に中央祠堂東面の石材40石ほどが落下するなど、祠堂群は大変不安定な状態にあります。そこで、これらを修復するため、2011年度から「西トップ遺跡等調査修復現地事務所」が発足し、2015年度までの5ヵ年計画で西トップ遺跡の調査・修復事業に取り組む運びとなりました。

6月から調査員が本格的に長期滞在を開始し、本事業にかかる様々な業務に携わっています。早速6月8・9日には、アンコール遺跡の調査・修復に従事する各国調査団による「第20回国際技術小委員会」が開催され、奈文研も調査報告と修復事業について発表しました。同13・14日には「東南アジア窯跡研究会」が現地事務所で開催され、第一線で活躍中の研究者が世界各国から集まり、熱い議論が交わされました。また現地事務所に、新たに遺物展示コーナーを設けました。研究者だけでなく一般の方々にも広く私たちの活動を知っていただけるように、これからも展示を充実させていくこうと考えています。皆様、ぜひ一度お越しください。

（企画調整部 佐藤 由似）



西トップ遺跡 現地事務所の外観